



日本の森林は、戦時中の必要物資や復興用資材として大量に伐採されました。そのため戦後の植林は、荒廃した森林を早期に復興するため、「拡大造林」として比較的成長の早いスギやヒノキ、カラマツなどが主体的に植林されてきました。

昭和30年代からは木材輸入の

途切れる山の循環

このように森林は、「緑の社会資本」として私たちの暮らしを支える大きな役割を果たしているのです。

紹介した森林の機能はごく一部ですが、この他にも、さまざまな機能を持つため森林の「多面的機能」と呼ばれています。

また、森林の木々が地球温暖化をもたらし過剰なCO₂(二酸化炭素)を光合成によって吸収し、貯蔵する機能も注目されています。

森林の土壌は、雨として降った水をスポンジのようにため、ゆっくりと川に流し、洪水や濁水を緩和する「緑のダム」の機能を持っているのです。

●インタビュー●

森の今を憂う。 まずは関心を持って



野中長次郎さん
(岩井町)

のなか・ちようじろう / 中学卒業直後から33年間林業に携わる。現在300haの林業経営を行う。平成20年には中日造林賞奨励賞を受賞。

— 林業との関わりはどのようか。 —

野中 父が林業に携わっていたので、家業として継ぎました。私が子どものころは、林業をなりたいにしている方がまだまだいましたが、今では専業で取り組む方はほとんどいなくなりました。

— 高山市の山林の現状はどうでしょうか。 —

野中 全国平均と比べれば、まだ手入れされている山が多いと感じますが、雪害のリスクを考えると、早い時期に間伐などの手入れが必要となります。決して安心という現状ではなく、むしろ憂慮の感があります。

— これからの森づくりについてお聞かせください。 —

野中 森が水や環境を守る大切な役割を担っていることは、語られて久しいものがあります。正しい知識を持って森の大切さや林業の必要性を議論していくことが必要ですし、まずは森林に関心を持っていただくことが大切だと思います。

— 今後の林業の展望は？ —

野中 経営的には、まだまだ厳しいものがあると思います。しかし、何でもそうですが、自分が育てた木が大きくなっていくのを見ることがいいですね。